

とうきょうのフクロウ類は今・4

意外に知られていない都会のフクロウ(3)

ツーショット撮影後、雌雄の観察は順調に推移しました。17時～20時まで数回の夜間調査を行うとともに、閉園時から翌朝までのICレコーダーによる音声録音などを行いました。夜間調査時には開始早々、地上で捕食する姿も観察されましたし、録音された音声にはメスがかなり激しく鳴いている様子が記録され、繁殖期が近いことをうかがわせるものもありました。しかし、ある日突然この番いの幸せは終わりました。2019年3月、メスのフクロウ【写真1】が何者かに襲われ(おそらくハクビシン?)落命してしまっただのです。

その後、オスの独身生活が続くこと10ヶ月。2020年2月、この緑地の職員さんから伺った「フクロウってすごく恐い声を出すんですね!」というひと声事態を一変させました。松の樹上でギャー・ギャーという声で鳴いていたとのこと。メスの鳴き声・姿も見られているということなので、早速2月27日に夜間調査実施と相成りました。



写真1 落命したメス



写真2 新しく来たメス

世の中はコロナ禍で騒々しくなりましたが、観察は定期的に続けることができ、微笑ましいツーショット【写真3】やディスプレイの瞬間などを記録に収めることができました。しかし、繁殖に関しては、営巣場所の確保の問題か?繁殖のための食料が不足するのか?定かではありませんが、待望の営巣までには至りません。[了]

調査開始から約1時間半後

の17時56分にシナサワグルミにとまるフクロウを発見し、僅かに残る光を頼りに高感度夜間撮影に成功しました【写真2】。ギャツ・ギャーという鳴き声でメスと判明。数分後にオスの鳴き声を確認。更に、数分後には夕闇の中、2羽が連れ添って樹林帯の上を飛翔する姿を観察することができるという完璧な調査でした。



新しく来たメスと仲むつまじい姿を見せるフクロウのペア。ヒナの誕生が望めます。

※本稿については、希少種保護のため、場所・執筆者は伏せました。